

地域の願いを県政に！

平成30年2月県議会で、第3回目になる本会議一般質問の機会を得ました。日頃より政治、議員活動で把握し温めてきた諸課題をとりあげ、それぞれ一定の成果をあげました。質疑概要をご報告します。



神奈川県議会議員 **おざわ良央**

よしなか

1 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みについて

おざわ 対象者大幅増だが、身体、知的障がいよりサービスが劣る。精神科病院と市町村との連携拡充には、県の積極的な関与が必要だが。
知事 改定する県の障がい福祉計画では、ご指摘を新たに位置づけ、保健、医療、福祉関係者が連携支援する体制づくりを進める。県西地域の実態調査等での成果を生かして行く。

2 エネルギーの地産地消について

おざわ 地域の太陽光発電等からの電力を、消費者に提供する「地産地消」の中で、県有施設も取組みを始めるべきだが。
知事 地産の電力を多くの県民や事業者が選択し地消することは大切。県有施設での取組も、まずモデル的に検討する。
おざわ 開始時期を明確にして欲しい。
知事 県有施設でのエネルギーの地産地消を早急に検討し、平成30年度中に実施したい。
おざわ 県有施設での取り組みでは、知事が

旗を振って、導入する施設を増やして欲しい。

3 女性の就業支援について

おざわ 地域社会の活力維持には、女性の社会活躍が必要。環境を整備して就労機会増を図るべき。
知事 本県女性の年齢別就業状況は35～39歳が全国でも最も少ない。経済団体等にも働きかけ、女性が働きやすい環境づくりを進めて行く。
おざわ 働く意欲を持つ女性の活躍は女性自身の自己実現にもなる。社会全体の活力強化のためにもしっかり進めて欲しい。

4 避難所運営体制の強化について

おざわ 大規模災害時の避難者への適切な対応のために、市町村への県の「避難所マニュアル策定指針」の改定で県の方針は。
知事 ①地域住民の自主的な運営が基本
②車中泊等の避難所外避難者の把握や健康維持、避難所の安全性確保や生活環境の向上

5 保育士確保に向けた支援について

おざわ 保育士不足解消に、横浜の「保育士・保育所支援センター」が利活用しにくい。県西部等の保育園の求人活動への支援強化を。
子どもみらい担当局長 「就職相談会」のきめ細かい開催等、県西地域保育所の求人活動への支援を充実させる。
おざわ 都市部以外にも、県の「支援センター」の支所設置等が必要と思うが。
子どもみらい担当局長 インターネット登録の活用促進等、都市部以外の保育所でも利用しやすい「センター」へ努力する。
おざわ 保育士の処遇改善も必要。県の多面的な支援を強く要望する。

6 神奈川と静岡を結ぶ道路ネットワークの強化について

おざわ 両県を結ぶ沿岸部道路網強化への私の一昨年への質問に、積極的な県答弁があった。その後の取組みと今後の対応を問う。
県土整備局長 両県の観光振興や地域の活

性化のためにも、本道路網は重要。県計画に位置付け、早期整備を国等に働きかけ、静岡県との情報交換や、県と地元市町の勉強会を始めた。今年度は取組を更に進め、課題別のワーキング等も設置。両県を結ぶ道路網を強化したい。更に国道135号の渋滞個所の具体的な改善策等を検討する。

7 酒匂川の堆積土砂対策に対する取組

おざわ 局地的豪雨災害等が頻発。酒匂川下流部の堆積土砂に、流域住民の氾濫等への不安が大きい。今後の対応を問う。
県土整備局長 「酒匂川土砂管理プラン」を5年前に策定。国や静岡県、県内広域水道企業団等と連携し、土砂管理してきた。酒匂川上流部は崩壊しやすい地質が多く、下流部で土砂堆積しやすい。毎年定期的に測量を行い、関係機関と連携し、新しいプランに、流域一体の堆積土砂対策をしっかり位置づけ、住民の安全確保に努める。
おざわ 流域住民の不安解消のためにも土砂掘削の取組を事前に自治会等へ周知すべき。「土砂管理プラン」の改定作業は地元市町や地域住民の意見等も聞きながら進め、より安全な酒匂川にして欲しい。